

離島の粗飼料多給による和牛肥育試験

浦川 勝己・堀池 久・市岡 賢 (長崎県豊岐農業試験場)

URAKAWA, K., H. HORIIKE and M. ICHIOKA: Beef Cattle Fattening by Using a Large Quantity of Roughage in an Outlying Island

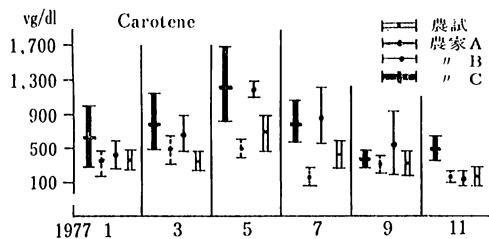
豊岐地域における肉用牛の振興は、中規模飼育階層の育成と一貫生産体系の確立を指向し、各種の施策がすすめられている。しかしながら地域の肉用牛経営が繁殖経営を基調として続けられている現状のなかでは、肥育経営はさきわめて低調である。このため肥育経営の可能性をみるため、地域で生産した良質粗飼料を多給した実証試験を行なったのでその結果を報告する。

1. 試験の方法

供試牛 黒毛和種去勢牛を系統別 (めす鳥取×おす鳥取の産子6頭, めす鳥取×おす但馬の産子6頭, 父但馬のめす×おす但馬の産子6頭) に生後8~9ヵ月齢18頭を選び、1977年11月1日~1979年3月31日まで514日間飼料作物7,440kg, うち肥育前期に3,840kg給与した。種類はイタリアンライグラス, 二条大麦, とうもろこし, ソルガムを主に、稲わらは全く利用していない。濃厚飼料は大麦, とうもろこし, ふすま, 大豆かす, 米ぬかを粉砕し, DCP 11.8~10.4%, TDN 73.7~72.4%に自家配合したものを3,294kg給与した。給与飼料の繊維率は9%以内に設定し平均7.1%にした。管理の主なものは採食量の増加, 第1胃の恒常性, 飼料効率を考慮して飼料の給与回数を5回とし, 期間中毎日5時間放飼し, 適当量の手入, 削減を行なった。

2. 結果及び考察

1) 血液性状 特に異常値は認められなかったが、血清中のカロテン, ビタミンAの値は粗飼料多給時に上昇し、稲わら利用農家群との間に有意差を認めた。



1977	豊岐農試					
	1	3	5	7	9	11
A	*	*	* *	* *	*	* *
B						
C	*	* *	* *	* *		* *

T 検定 * : t < 0.05 * * : t < 0.01

第1図 カロテン含有量比較

2) 期間中の発育量 平均体重 357.2kg, 平均体高 22.6cm, 平均胸囲59.0cm, 平均肥育度指数 454, 平均 DG 0.697kgと目標の増体を示した。

3) と体成績 平均と殺前体重 598.9kg, 平均冷と体の枝肉重量 382.8kg, 平均枝肉少留 63.9%, 平均脂肪交雑 + 3.3 (産肉検定間接法), 平均ロース芯面積 45cm² (第6~第7期間), 平均と体長 149.4cm, 平均背脂肪の厚 2.1cmであった。

4) 枝肉格付と価格 特選 2頭11%, 極上11頭61%, 中5頭 28% (産肉能力検定間接法), 全農格付上 2頭中上11頭, 中下4頭, 等外1頭であった。

枝肉価格 1kg当たり1,950円~1,400円, 平均 1,693円, 1頭当たり759,055円~448,140円, 平均 637,934円であった。

5) 肥育疾患の発生及び内臓廃棄 肥育期間中疾病の発生は皆無で、特に尿石症の予防措置は行なわなかった。と体の内臓廃棄は銀肝臓 2, ケンネル 2, スポット 1, 第4胃廃棄 1であった。

以上の結果から

1) 肥育飼料として粗飼料の多給は、肉質の問題から制限され稲わらに依存されているが、目標の増体量も得ることができ、肉質特に飼料作物中のカロチンの摂取に関係のある脂肪着色の影響もきわめて少なかったことから、飼料費の軽減、稲わらの入手難の対応、肥育疾病の防止など経営の安定性が得られると思われる。

2) 枝肉等級は産肉能力間接法によれば、上肉率72.2%で上肉が得られたが、日本食肉協会格付とは大きな差異があり、今後検討を要する。

3) 産地系統 (但馬系) の交配により肉質の向上がみられた。父但馬×母の父但馬の肉質については6頭中3頭が同一種雄牛であり、種雄牛のもつ遺伝性が高いと考えられるので、産肉能力検定成績を基に交配することが斉一性の高い肥育牛が期待されるのではないかと推測される。

第1表 系統別と体成績 (抜粋)

父×母の父	脂肪交雑	ロース芯面積	枝肉等級
鳥取×鳥取	+3.3 +2.5~3.5	cm ² S D 2.57 43 C V 0.06	極上 中 4 2 (頭)
但馬×鳥取	+3.6 +2.5~4.5	cm ² S D 6.41 44 C V 0.15	特選 極上 中 2 3 1
但馬×但馬	+2.9 +2.0~3.5	cm ² S D 3.90 47 C V 0.08	極上 中 4 2